

## 春焼き～火入れ

1. 実施日時 令和元年6月2日（日） 8：00～20：00
2. 実施場所 仁多郡奥出雲町佐白地内（ダムの見える牧場林地）
3. 参加者数 火入れ従事者18名／見学者4名 ※総22名  
※参加者住所地（松江市、雲南市、奥出雲町、出雲市／広島県、京都府）
4. 概要 11時30分着火、15時30分延焼終了、16時30分鎮火。  
曇時々晴、最高気温28℃、湿度不明、風0～1m（着火時）。  
火入れ面積約18アール。2区画分の予定を変更して1区画（A区画）のみで実施。飛び火はなし。区画内の刈って伏込した草木含めてほぼ燃焼。
5. 今後の予定
  - 播種、間引き、草刈り等栽培管理（アワ、タカキビ等の雑穀、豆類、芋類、モロコシ等混作）
  - 夏の火入れに向けての準備（伐開、竹の伏せ込み、草刈り等）
  - 奥出雲を中心としながらも関連する広域での在来作物調査、伝統食文化調査の継続
  - 地域の焼畑に関する多面的調査の継続（歴史、民俗、環境生態、山村の生活技術、信仰等）

### 6. 状況写真

▼人員配置・機器確認後、風下山手（区画の西南斜面側）より着火。開始30分までは火勢弱く、材の移動・火掻き棒での浮かしなどへ人員を投入。40分後くらいから延焼開始。



▼西南斜面延焼が中腹以下に達し、火勢の落ち着きをみて、防火人員配置をシフト、東南斜面側上部より着火（12時40分頃）。1時間以内には延焼開始。斜面最下部到達14時30分頃。



▼16時には延焼終了、16時30分鎮火。20時まで見回り確認後、最終撤収。



## 7. その他（経過と要検証事項等）

### ●春の火入れについて

- ・五月中旬まで降雨がない日が続き乾燥度の高い状態が続いたが、週に一度の降雨が2週にわたり、ある程度の湿潤が土中、林内枯葉層、火入れ地にもたらされた。前々日の降雨、翌日の晴天と風、当日の無風と曇空…、さまざまな条件で結果として理想に近い火入れとなった。
- ・今回は竹のほかに灌木やササ類もまじったところであり、竹の堆積部を数箇所つくり、その間を灌木やササ類の枯葉や茎の堆積でつなぐ形とした。伐るタイミングが早すぎると延焼速度がまし、火のコントロールが難しかったかもしれない。伐る時期を分散させたこと、ササ類がもっとも多く集積している箇所については、前日に刈ったこと。防火帯で林地にもっとも近い裾部のササ類については、当日の朝に切ったことなどが今回はよかった。

### ●機器と事故防止について

今回、エンジンポンプのノズルがホースを破って外れ、1名が指に怪我（裂傷、3針縫合、病院にて処置）をおった。大事にはいたらなかったものの、原因整理と対策とともに、今後活動全体の安全管理を見直してのぞむ。主に3つの観点から。

- ・動力機器の扱いについて、基本講習の内容の見直し。整備と運用のマニュアル化。
- ・服装装備品の要件の再点検。動力・刃物利用時の手袋は革製、ほか靴や服装などについて。
- ・これまでのヒヤリハット事項の洗い出しと対策の文書化。

### ●時間経過

- 7:40 先発着・準備開始
- 8:00 一般参加受付開始
- 9:30 学生団体到着
- 10:00 全体ミーティング後、配置確認、エンジンポンプ・ホース・ノズル配置と放水テスト
- 11:15 火入れ式（風0m…火入れ局地／気温28℃／晴れ／湿度不明）
- 11:30 西南斜面上部より着火（人員配置：点火部3、上部4、ポンプ2×2、シューター5等）  
開始30分までは火勢弱く、材の移動・火掻き棒での浮かしなどへ人員を投入。
- 12:10 延焼はじまる。
- 12:40 西南斜面側の延焼が竹積み部最下部へ到達。防火人員配置をシフト、東南斜面側上部より着火。
- 13:15 東南斜面側防火帯域を火入れ地内側へ移動。主にササ類茎部堆積の層を重ねて迎え火のラインを形成し上部から順次着火。内部の延焼が外側に広がる速度が早いため。
- 14:30 東南斜面側の延焼が最下部へ到達
- 15:00 東南斜面側最下部の火勢が強く、防火帯草地への延焼がはじまったため、エンジンポンプによる防火、消火の放水を実施。
- 15:40 主要部の火勢が落ち着く。北西部裾地の竹へ着火開始。防火ホースの破損など状況事態をみて、材の約半分を移動し、火勢を弱めた状態での燃焼に切替え。
- 16:15 火勢弱まったため、順次撤収準備。
- 16:30 鎮火。撤収開始。
- 17:15 終了ミーティング、全体解散。
- 18:00 現場見回り開始。斜面残置の炭火丸太の移動。南西部防火帯へのエンジンポンプによる防火放水。その他火切り線づくり、掻き出しや落葉堆積箇所の崩しと放水など。
- 20:00 火入責任者現場最終確認、退去

---

†. 令和元年度竹の焼畑事業は「出雲の山墾り～竹の焼畑2019」と呼称。奥出雲山村塾、島根大学里山管理研究会、森と畑と牛と、ダムの見える牧場が主要主体となって取り組んでいる事業です。